



2020年3月期第2四半期 決算説明資料

株式会社ダブルスタンダード（証券コード：3925）

代表取締役 清水 康裕

2019年11月13日

1. 2020年3月期 – 第2四半期 決算概要 . . . P.3

- (1) 決算ハイライト . . . P.4
- (2) 連結損益計算書 . . . P.5
- (3) 連結売上高 . . . P.6
- (4) 連結営業利益 | 経常利益 . . . P.7
- (5) 連結貸借対照表 . . . P.8

2. 2020年3月期 業績予想 . . . P.9

- (1) 基本方針 . . . P.10
- (2) 連結業績予想 – 売上高・営業利益 . . . P.11
- (3) サマリー . . . P.12
- (4) 配当政策 . . . P.13

3. 事業説明 . . . P.14

- (1) 基盤技術の概要 . . . P.15
- (2) 事業説明 (事例 | 含: 開発中) . . . P.16



本資料の予測数値は、本資料の発表日までに入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。

2020年3月期－第2四半期 決算概要

決算ハイライト

1

ストック型売上が順調に積み上がり、対前年同期比で増収増益。

| | | | |
|------|--------------------|---------------------------|---|
| 売上高 | 1,535,982千円 | (前年同期比 +233,095千円 +17.9%) |  |
| 営業利益 | 492,030千円 | (前年同期比 + 36,022千円 + 7.9%) |  |

2

新たなサービス「D-Trust（KYC対応のデジタル身分証システム）」を開発。導入に向けて展開中。

3

OCR処理を軸とするAI活用型RPAサービスが変わらず順調。業務効率・簡便化の支援サービスとして成長。

【AI搭載型OCR導入実績】

マネックス証券株式会社 | 株式会社SBI証券 | 大和リビング株式会社 | カブドットコム証券株式会社

野村證券株式会社 | 株式会社SBIネオモバイル証券 | **SBI損害保険株式会社** | **株式会社クレディセゾン** 等

※その他、プレスリリース等を実施しておりませんが、導入済または導入準備段階の案件が複数業界から頂戴しています

連結損益計算書

ストック型案件の増加による売上高増

アップセル・クロスセルを中心としたストック型案件の受注が堅調。AI活用型RPAサービスの受注においても、順調に推移していることから、売上高は前年比17.9%の増収。

計画的な要員増加による販管費の増加

計画とおりの採用が進んでおり、人件費増を主因として販管費が増加。しかしながら、業務効率の向上による販管費抑制が機能しているため、営業利益は前年比7.9%の増益。

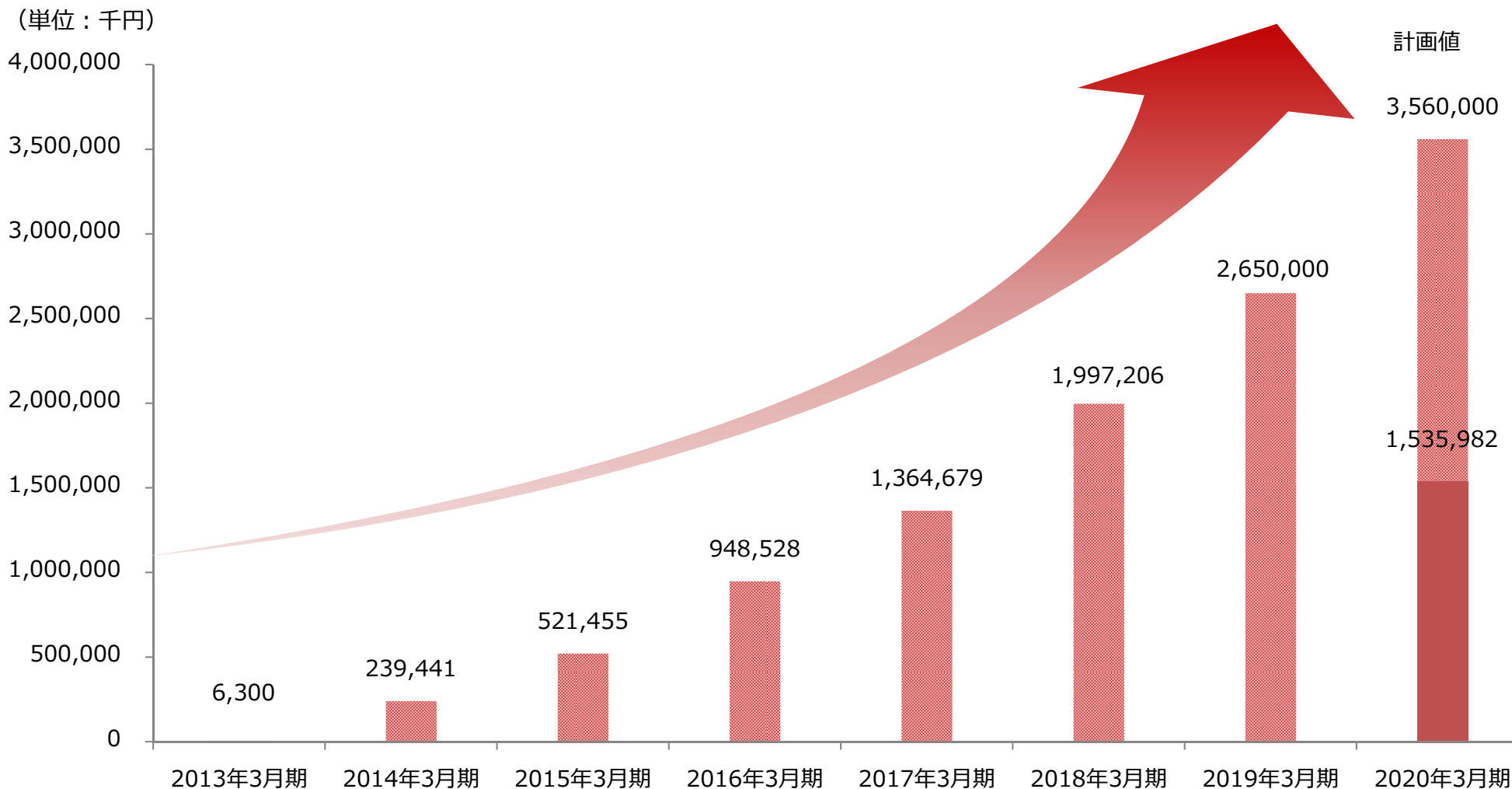
(単位：千円)

| | 2020年3月期 第2四半期 | 2019年3月期 第2四半期 | 前年同期比 | | 2020年3月期 計画数値 ※2019年8月13日公表数値 | |
|----------------|-------------------|-------------------|----------|--------|----------------------------------|--------|
| | 実績 | 実績 | 金額 | 増減率 | 年度計画 | 進捗率 |
| 売上高 | 1,535,982 | 1,302,886 | +233,095 | +17.9% | 3,560,000 | +43.1% |
| 売上原価 | 762,961 | 587,412 | +175,548 | +29.9% | 1,680,221 | +45.4% |
| 売上総利益 | 773,020 | 715,473 | +57,546 | +8.0% | 1,879,778 | +41.1% |
| 販管費 | 280,990 | 259,466 | +21,524 | +8.3% | 779,778 | +36.0% |
| 営業利益 (利益率) | 492,030 32.0% | 456,007 35.0% | +36,022 | +7.9% | 1,100,000 30.9% | +44.7% |
| 経常利益 (利益率) | 486,874 31.7% | 460,042 35.3% | +26,832 | +5.8% | 1,108,000 31.1% | +43.9% |
| 当期純利益 (利益率) | 326,536 21.3% | 306,380 23.5% | +20,156 | +6.6% | 731,280 20.5% | +44.7% |

■ 連結売上高

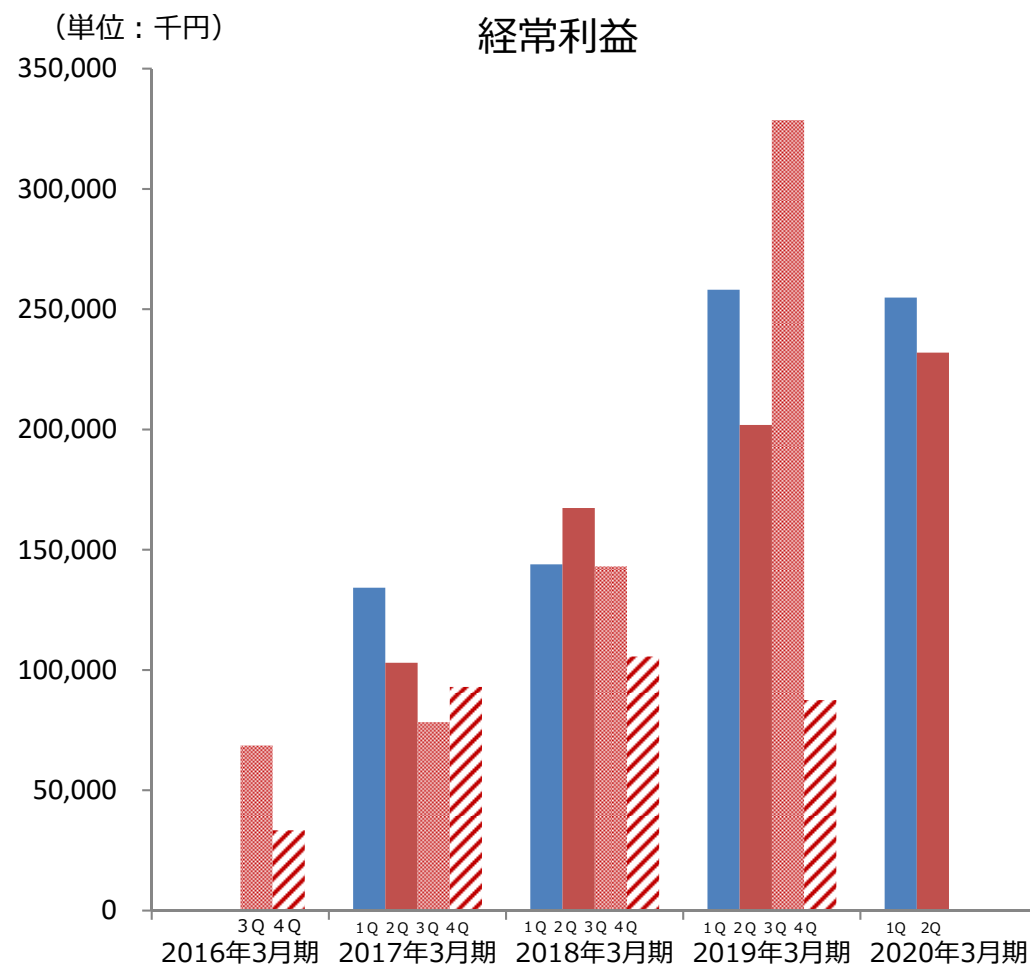
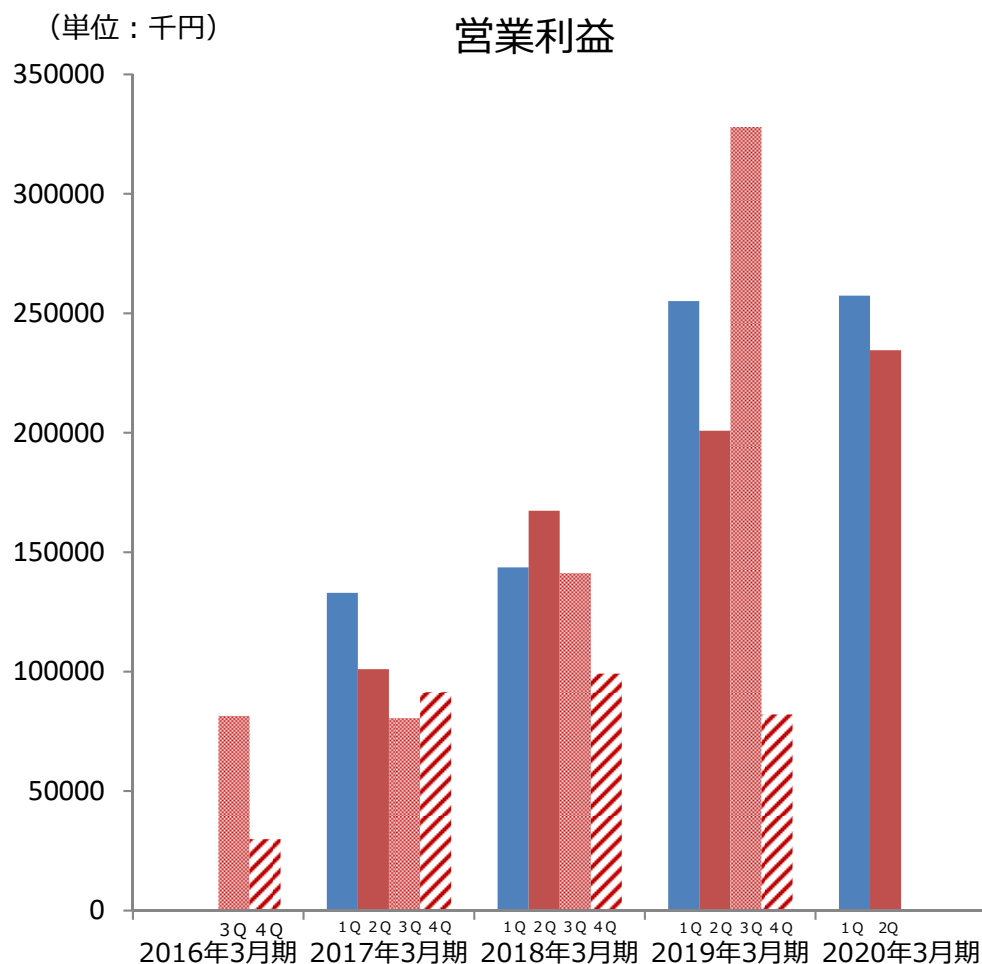
ストック型 : AI・アルゴリズム処理を軸としたデータクレンジング、および当該技術を応用転用したサービス企画案件の継続的な受注拡大により順調に増加（計画とおりに進捗中）。

非ストック型 : 従来から上期偏重傾向にあるサービス企画開発事業の伸びが計画とおりに一時的に落ち着く。



連結営業利益 | 経常利益

**要員強化のための人材採用活動が計画とおりに進捗。その結果、販管費は人件費を中心に増加。
 販管費の増加を、安定収益基盤であるストック型売上の堅調な増加及びコスト抑制効果によって吸収し、
 利益は堅調。**



連結貸借対照表

【資産】… 納税による現預金の減少があったが、売掛金及び投資有価証券の増加により資産は増加。

【負債】… 未払法人税等、未払消費税等の減少により負債は減少。

【純資産】… 配当金の支払いがあったが、四半期純利益の計上により純資産は増加。

| (単位：千円) | 2020年3月期 第2四半期 | 2019年3月期 | 前期末との比較 | |
|------------|-------------------|-----------|-----------|--------|
| | 実績 | 実績 | 増減金額 | 増減比率 |
| 流動資産 | 1,956,703 | 1,938,445 | + 18,258 | + 0.9% |
| うち、現金及び預金 | 1,499,489 | 1,658,279 | △158,789 | △9.6% |
| 固定資産 | 324,481 | 232,773 | +91,708 | +39.4% |
| 総資産 | 2,281,185 | 2,171,218 | + 109,966 | + 5.1% |
| 負債 | 397,513 | 448,794 | △51,281 | △11.4% |
| 純資産 | 1,883,671 | 1,722,424 | + 161,247 | + 9.4% |
| 自己資本比率 (%) | 82.6% | 79.3% | — | — |

2020年3月期 業績予想 –変更なし–

基本方針

1

「営業部門廃止 | エンジニアによるサービス啓蒙活動への転換」

I P O以降、断続的にお問合せを頂戴していること、既存顧客から見込客を随時ご紹介いただく中で、一層の顧客開拓コスト抑制により、高品質なサービスを実現する方針を掲げ、対応要員を専門知見のあるエンジニア中心に軸を移し、顧客ニーズを最適にくみ取る組織作りを行いながら、業容拡大を図ります。

2

「SaaS発想でのサービス強化と顧客ニーズの個別具現化」

当社技術基盤については、顧客全体に提供するサービス価値を左右するため、積極的な改善・投資活動を継続していく一方で、エンジニアによる顧客ニーズ収集を励行し、個別課題の改善をお手伝いさせていただきながら、全社収益を高めていくこととします。

3

「ストック型案件の受注拡大・継続率維持活動の遂行」

提供サービスを、顧客の事業ならびに業務の基盤となる領域で取り扱われる内容に仕上げ、且つ売上拡大もしくは費用削減に寄与しつつ、安定的な収益確保を実現できるものに集中させています。

■ 連結業績予想 – 売上高・営業利益

「事業の安定成長」

2020年3月期においても、事業の柱をビッグデータ関連事業、サービス企画開発事業に据え、技術および知見の応用転用を繰り返しながら、サービスを拡大し、安定成長を目指してまいります。特に、強いニーズが存在するデータクレンジングサービスを、様々な企業様に提供してまいります。

「要員の質量強化」「徹底した業務効率化」「積極的な価格抑制」

クライアント接点に恵まれている現況、対応要員の質量強化、サービスの断続的な開発・発信、積極的な価格抑制および削減に取り組みつつ、特異性の高いサービスを、徹底した業務効率化によって、低価格でご提供差し上げ、高いご満足をいただけるよう取り組んでおります。

「断続的な新規サービスの開発・提供」

昨年度、主に金融機関向けに開発した新規サービスについて、業界内外で順調に縦横展開を開始しました。サービス開発およびその提供を如何に加速させるか、当社技術基盤を応用・転用することでこれを実現してまいります。

サマリー

かねてより実践してまいりました、ストック型案件受注の取組強化が功を奏し、過年度以上に前期比で大きく成長することを見込んでおります。経営判断として、今期は特に当該方針への取組に注力し、そこに要員等リソースを集中させます。これにより、従来から上期偏重傾向にあるワンタイム中心のサービス企画開発事業の伸びが一時的に落ち着く可能性がある一方、通期ならびに将来には良い影響を与えると判断しました。

売上高

AI搭載型OCRを中心に新サービスの受注拡大
安定収益基盤であるストック型案件の継続成長

予想売上高 **3,560,000千円**

前期比 **+26.6%**

営業利益

先行投資の実施により生産性向上が実現
更なる利益率向上を見込む

予想営業利益 **1,100,000千円**

前期比 **+27.0%**

| (単位：千円) | 2018年3月期 | 2019年3月期 | 2020年3月期 予想 | | |
|----------------|--------------------|--------------------|----------------------|------------------------------|----------|
| | 実績 | 実績 | 5月公表数値 | 8月修正数値 | 差額 |
| 売上高 | 1,997,206 | 2,812,981 | 3,235,000 | 3,560,000 | +325,000 |
| 売上原価 | 980,925 | 1,358,045 | 1,485,221 | 1,680,221 | +195,000 |
| 売上総利益 | 1,016,281 | 1,454,936 | 1,749,778 | 1,879,778 | +130,000 |
| 販管費 | 464,828 | 588,717 | 744,878 | 779,778 | +34,900 |
| 営業利益 (利益率) | 551,452 (27.6%) | 866,218 (30.8%) | 1,004,900 (31.0%) | 1,100,000 (30.9%) | +95,100 |
| 経常利益 (利益率) | 559,971 (28.0%) | 876,333 (31.2%) | 1,012,900 (31.3%) | 1,108,000 (31.1%) | +95,100 |
| 当期純利益 (利益率) | 324,064 (16.2%) | 585,357 (20.8%) | 670,715 (20.7%) | 731,280 (20.5%) | +60,564 |

■ 配当政策

配当方針

当社グループは株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題であると認識しております。上場間もない当社ではありますが、継続的に株主の皆様に対する利益還元を実施する方針であります。配当金につきましては、内部留保による財務体質の強化を図りつつ、連結業績および財政状態を勘案しながら、利益配当を行っていく方針であります。

配当性向

2020年3月期の連結配当性向につきましては**25%を目安**とし、過年度配当性向を勘案のうえ、配当性向27.6%の1株当たり30円を予定しております。

● 1株当たり配当金表

| | 1株当たり配当金 (円) | | | 配当性向 (%) |
|----------------------|--------------|-----|-----|----------|
| | 中間 | 期末 | 合計 | |
| 2018年3月期 | — | 40円 | 40円 | 41.2% |
| 2019年3月期 | — | 24円 | 24円 | 27.6% |
| 2020年3月期 (予想) | — | 30円 | 30円 | 27.6% |

注1) 2018年3月期は普通配当25円と特別配当15円を合算して記載しております。

注2) 2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2018年3月期については、当該分割前の実際の配当の額を記載しております。

事業説明

基盤技術の概要

ビッグデータ関連事業

「技術の組み合わせ」で出来るサービス

●取得情報活用型サービス

取得情報に対し、当社クレンジング技術を活用して高精度のデータを生成。競合ポータルの分析や、営業用のアタックリストとして活用いただけるデータをご提供



●PDF情報活用型サービス

OCRで取得した情報に対し、当社クレンジング技術により、様々な形式に成形加工したdataを提供



●顧客DB活用型サービス

顧客の保有するDB情報を活用した、新たなコンテンツの開発・運用を支援



●帳票活用型サービス | チラシ活用型サービス

請求書などの帳票や、求人広告チラシなど紙にしかない重要情報をDB化。従来、宝の持ち腐れになっていたアナログ情報のデジタル化を支援します。



ビッグデータ処理に関する基盤技術

DOUBLE STANDARD

①情報収集

HTML、PDF、画像、請求書、帳票、音声、その他の情報収集



②情報抽出

収集情報のテキスト化・コラム化



③クレンジング

テキスト化・コラム化された情報のクレンジング



⑤レコード振分

クレンジングが完了したレコードの振分処理



④マッチング

揺らぎを含んだデータ同士のマッチング



サービス企画開発事業

「技術の組み合わせ」+「サービス企画開発力」で実現するサービス

●情報収集+情報抽出技術を活かした変更検知システム

調査対象の情報掲載・更新を自動で定期的にチェック。最新情報の見逃し排除 + 作業効率化で顧客業務をサポートします。



●情報収集+情報抽出+情報加工+マッチング技術を活用した各種サービス

商品の最安値情報や不動産物件の賃料相場など、様々な情報をクロールで取得し、当社技術を活用して有益な情報を生成。



●情報抽出+情報加工+マッチング技術を活用した各種サービス

音声や位置情報など、非html情報をDB化。適切なデジタルレコードに変換し、顧客の販促支援・業務削減をサポートします



●その他企業向けサービス

当社技術を総合的に活用した、企業向けの様々なサービスを展開



ビッグデータ関連事業 | サービス企画開発事業 (事例 | 含: 開発中)

顧客に寄り添い、現場課題を解決するため、高度な技術と知見を活用して劇的なイノベーションを実現します！！

ビッグデータ活用領域

(ビッグデータ関連事業)

✓ マーケティング活動支援システム(WEB)



✓ マーケティング活動支援システム(紙)



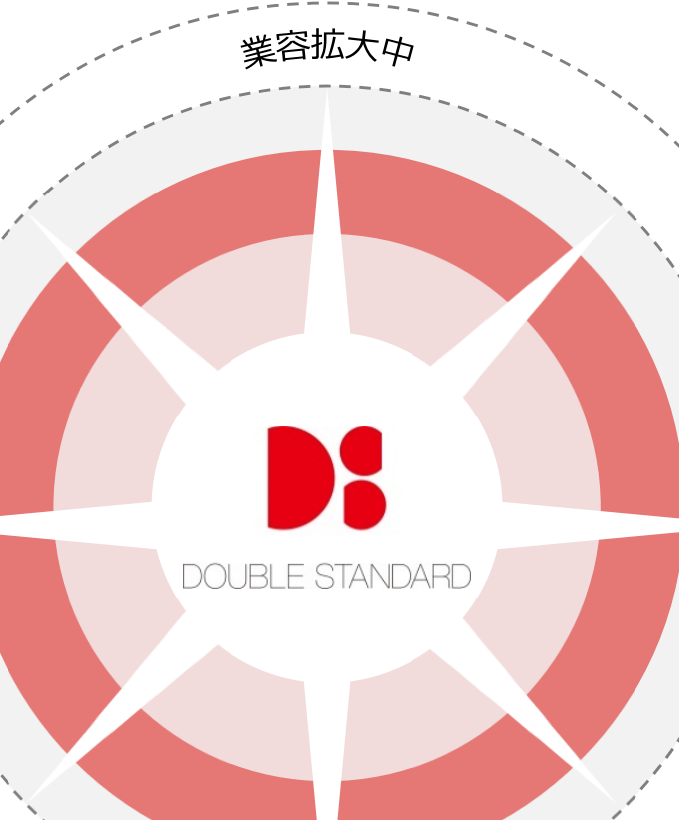
✓ 顧客データ強化・活用システム



RPA(Robotic Process Automation)領域

(ビッグデータ関連事業)

✓ バックオフィス業務自動化システムなど



AI 活用領域

(サービス企画開発事業)

✓ 変更箇所自動検知システム



✓ 音声テキスト化システム



✓ コンタクトセンター業務改善支援システム



✓ 位置情報活用型マーケティングシステム



FinTech領域

(サービス企画開発事業)

✓ WEB口座開設支援システムなど



本資料に記載されている経営戦略、計画や見通し等は、本資料作成日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る一定の前提条件に基づいており、当社としてその実現を保証するものではありません。

実際の業績は、業界の状況、経済の状況、金融市場の動向の他、様々な要因によって大きく変動する場合があります。予めご承知おき下さい。

本資料は、株式会社ダブルスタンダード及び当社関係会社の事業の概要へのご理解をいただくために作成されたものであり、投資の勧誘または斡旋を行うものではありません。投資に関するご判断は投資家様ご自身の責任で行われますようお願い申し上げます。

